

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年4月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2276700222		
法人名	有限会社スリーエス・いわた		
事業所名	グループホーム 苦楽舎		
所在地 (電話番号)	磐田市 匂坂上 234-1 (電話) 0538-38-4000		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成21年1月23日		

【情報提供票より】(21年1月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 2人, 非常勤 6人, 常勤換算	3.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,600 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	(無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(1月 12 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	78 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木クリニック ゆき歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、磐田市内の田園地帯にある。平成20年8月に前経営者から経営を引き継いだ管理者が代表者となった。利用者のことを第一に考え、ホームの理念である「穏やかで心休まる生活の提供、笑いと楽しみのある生活、ゆっくりリズムの自分らしい生活」を実践し、一人ひとりがその人らしく、生き生き、伸び伸びと暮らしている。ホーム内は、どこも掃除が行き届き清潔感にあふれ、地元の野菜を用いた手作りの食事は、利用者の楽しみとなっている。隔月開催される運営推進会議も充実しており、地域の理解と支援を得る機会として運営に活かしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との連携は、運営推進会議や地域行事への参加などを通じ良好な関係が作られてきている。介護計画は、3ヵ月毎の見直しを行い、整備されつつある。利用者の「その人らしさ」の生活を重視し、伸び伸びとした暮らしを支援している。同業者との交流にも積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表は全職員で取り組み、管理者がまとめた。常勤職員 が少なく、時間が取れないため記入の難しさがあつたが、日常の介護を振り返る良い機会と捉えていた。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>民生委員、地域包括支援センター職員、市長寿推進課職員、地主、福祉委員、家族代表をメンバーとし隔月に開催している。ホームの活動報告、市からの情報提供、地域の行事予定などを議題とし、提供された情報をもとに、地域行事(敬老会・公民館祭り・祭典・どぶ掃除など)に参加する等、利用者の生活範囲が広がっている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情対応マニュアルを整えている。家族が声を掛けやすい関係作りに努め、家族の訪問時には、積極的に意見や要望を伺っている。また、各居室に設けられた面会簿に記載欄を設け、家族の意見が出しやすい工夫をしている。運営推進会議に家族代表が参加し、意見を運営に反映できるようにしている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入したり、運営推進会議で得た情報をもとに地域行事へ積極的に参加している。近隣の方が気軽に立ち寄り、野菜や果物のおすそ分けがあつたり、散歩で顔見知りとなつて声を掛け合うなど良好な関係が作られてきている。また、隣家には非常時の協力をお願いし、承諾して頂いている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来「穏やかで心休まる生活の提供」「笑いと楽しみのある生活」「ゆっくりリズムの自分らしい生活」を理念とし、玄関に表示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	面接時・採用時にホームの理念について話している。管理者は、日常の業務をしながら折にふれ職員に伝え、職員は理念に沿った介護を心がけている		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板の情報から地域の活動である掃除、草刈り、敬老会、七夕、餅まき、公民館祭りなどの行事にも参加している。ホームには、地元の人も気軽に立ち寄り、野菜や果物などをいただくこともある。小・中学生の福祉体験も受け入れるなど、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票の記入は全員で取り組み、管理者がまとめた。非常勤職員が多く、話し合う時間がとれず記入が不十分ではあったが、日頃の介護を振り返る良い機会と捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状を報告したり、市や地域包括支援センター、地域の情報が寄せられている。その情報をもとに、利用者が、地域の行事や活動に参加し、地域住民との交流につながることができた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の事業者会議に出席し、情報収集に努め、運営に活かしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に、健康状態や金銭管理の状況を報告したり、行事写真を掲示して様子を伝えている。また、利用者の暮らしぶりを見ていただけるよう遠足等、家族参加のイベントも行っている。	○	口頭で伝えるだけでなく、訪問が頻繁でない家族のためにも、ホーム便りの発行等、定期的な報告の方法を工夫されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が参加している。訪問時に気軽に声をかけたり、各居室に設けられた面会簿に意見を記入する欄があり、家族が意見や要望を出しやすい工夫をしている。苦情に関してはマニュアルを整備し、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はほとんど無いが、新任職員が入った際は、家族が訪問した際に紹介し、信頼関係の構築につなげている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加資料は、全職員が閲覧できるようにしている。新人職員には、業務を通して必要な知識や技術、心構えを教えるようにしている。非常勤職員が多く、積極的な外部研修参加への姿勢が見られない。	○	職員には、積極的な研修受講を呼びかけるとともに、研修計画を策定し、経験や習熟度に応じた職員育成に取り組まれたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと利用者・職員の相互訪問を行い、情報交換に努めながら、サービス向上に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望があった時は、家族や来所可能な方は本人も一緒にホームを見学してもらい、納得してから申込書を提出いただいている。その後、管理者や介護支援専門員が自宅を訪問し、入所後も他の利用者と早く打ち解けることができるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	散歩や洗濯物たたみの作業などを一緒にしながら、職員は利用者を自分の老後の手本とし、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
.					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に声を掛け、その時の意向や希望を聞きとるようにしている。表現できない利用者は、表情などから汲み取り、思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員は、職員に利用者の様子を聞いたり、業務日誌の中から課題を拾い上げ、介護計画を作成している。また、家族の訪問時に意見を伺い、作成後は説明して確認印をいただいている。	○	職員会議を定期的に行う等、職員が意見を出し合い、話し合う場を作ることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに定期的な見直しを行い、変化のあった時には随時対応して新たな計画を作成している。	○	業務日誌や職員申し送りノート等の介護に係る記録は、計画作成の基となるものなので、どのような内容を記録するのか、職員間でばらつきが生じないように、様式を工夫するなど、職員で意見を出し合い、検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応できない時は、利用者の希望する病院に付き添ったり、法事の際、自宅や寺まで送迎するなど、柔軟な対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、協力医に変更する方がほとんどで、6ヶ月ごとの定期的な受診や利用者の変化に応じた受診を支援し、情報交換を行っている。協力医以外の通院についても、家族と話し合って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、管理者が家族と話し合い、意向を聞いている。重度化や終末期に向けた職員全体での話し合いは、今後の課題となっている。	○	重度化にどう対応するのか、管理者や職員で事業所としての意向を話し合い、さらに協力医、家族や利用者とも話し合いの機会を作り、関係者全体で方針の統一を図っていくことが求められる。開設後、ターミナルケアに対応した実績があるので、方針の統一を図り、終末期の支援に取り組まれることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各居室にトイレがあり、プライバシーに配慮しながら排泄の支援ができる。職員の言葉掛けや対応も、丁寧に行われていた。記録などは事務所にまとめて保管し、個人情報の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大事にし、食事時間なども早く済む人、ゆっくり食べる人などそれぞれに合わせた対応をしている。利用者は自分の過ごしたいように過ごし、伸び伸びしている様子がうかがえた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が作るため、メニューは利用者の希望を取り入れたり、差し入れの野菜などがある時は変更するなど柔軟に対応し、食材も地場産の物を使うようにしている。職員も利用者と一緒に同じ食事を摂り、外食も随時取り入れ食事が楽しいものとなるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、利用者の入浴は一日置きとなっているが、入浴支援は毎日行っているため、希望があればいつでも対応している。リフト浴の対応も可能で、現在4名の方が利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボール投げやパズル、しりとりなどを利用者と職員が一緒になって楽しんでいる。洗濯物たたみや、掃除などの作業を行ったり、遠出の外出や地域行事の参加なども利用者の楽しみとなっている。	○	花の手入れや畑仕事、食事の盛り付けや食器拭きなど一人ひとりに合った楽しみ事や役割を持つ場面づくりの工夫も検討されたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、遠足やドライブ、外食など戸外に出る機会を作っている。年2回の遠足には家族も参加していただき、交流の場となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員で利用者の様子を見守り、日中鍵をかけない自由な生活を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム近隣の住民に、管理者が口頭で災害時の協力をお願いしているが、避難訓練等は行っていない。現在、運営者が避難訓練実施の申請書類を作成中である。	○	避難訓練を早急に実施し、災害時に確実な避難誘導ができるよう、特に夜間の対応に備えていくことが求められる。運営推進会議で、参加者から意見をいただき、地域との相互協力体制へつなげられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員がおり、栄養バランスや摂取量などに配慮した献立を作成している。一人ひとりの食事・水分量は、毎回記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開設当初デイサービスに利用していたホールが空き、利用者の居間兼食堂として利用している。広くゆったりとした共用空間は明るく日当たりが良く、穏やかな時間の流れがあり、利用者は居心地良く過ごしていた。脱衣所や浴室、トイレなども清潔で、掃除が行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや畳など個々にあった備品があり、利用者は仏壇を置いたり家族と一緒に写真を飾ったり、その人らしい居室になっている。利用者個々の収納場所が別にある、居室はすっきり片付き、清潔感が感じられた。		